

日高新報

大賀蓮の真偽論争で奮闘

阪本さんが父の情熱語る

ハス博士として知られる大賀一郎氏の弟子で、「舞妃蓮」を作った元日高高校教諭の故

阪本祐二氏(御坊市)の長男阪本尚生さんが5日、中町2丁目の寺内町会館で講演を行い、父のハスにかける

情熱を話した。阪本さんは祐二氏と大賀博士の出会いや交流などを説明し、昭和42年から45年まで続いた大賀蓮の真偽論争を

42年から45年まで続いた大賀蓮の真偽論争を解説。神奈川歯科大学の教授が大賀蓮を疑問視する論文を掲載した

のに対し、祐二氏は大賀博士の名誉を守るため最前線に立って戦い、ついに花粉四分子の比率に証拠を発見し、終息させた。

「父は思ったことはやりきる、一途な性格だったので、必死になつて反論しました。

そのせいか54歳の若さで亡くなりましたが、ハスに一生を捧げた人でした」と締めくくった。

このほか、美浜町三尾の大賀池ができたころは毎日見に行っていたこと、大賀博士が阪本さん宅に研究室を作ろうとしたこと、高校教諭として多くの生徒を家に招いていたことなど、さまざまなエピソードも紹介した。



「父はハスに一生を捧げました」と阪本さん